

(1) 現地踏査

平取ダム建設予定地における精神文化に関する現地踏査結果

参加者の感想 (抜粋)

日 時 平成 1 8 年 1 2 月 2 日 (土) 9 : 00 ~ 11 : 40
場 所 平取ダム建設予定地周辺
内 容

- ・和人が入る前は狩猟が主な生活の基盤で、(ダム建設予定のこの地域は) 狩りのためにも重要な拠点であった。また、終戦直後はわざわざ父が狩りに来ていた思い出の場所でもある。
- ・生活は和人化したけれど、精神文化を形に表した儀礼等は先祖から伝わった大事なものである。単に話をするだけでなく、それをどういうふうにして管理、保存していくのか考えてもらいたい。
- ・精神文化というのは、形でなかなか表しづらいものである。
- ・遙かのかなたの時代から、悠久の自然の中で (私たちアイヌ民族は) 自分たちの言葉で自分たちの精神でいつも荘厳な気持ちで狩りを行っていた。
- ・今は民族的な精神の部分を忘れていることがあるが、根底は紛れもなく先祖の血が流れていることを考えると、先祖の思いを残す所との対話は、非常に重たいものである。
- ・遙か何百年何千年を過ぎた精神文化であるということと、現代の文化とどう摺り合わせるのか、このことを真剣に考えながら協力できる部分があれば協力したい。
- ・改めて現地に立って見たことにより、先祖がどういう考えを持ってあの山に祈りをしていたのかということを考えてみた。差別が無くて一から十まで伝えられたのであれば、もっと自分にも分かったのかなど。どうしてあの場所で拝んだのか、どういう理由で拝んだのか、ということの先祖の思いが、今となっては分からないということを感じた。
- ・精神的な文化というものを後世にいかに残していくかということが大切であるし、我々の時代が終わったときに、そういう文化を持っていたということについて知らせる方法を考えなければならない。
- ・宗教の信仰の自由といった部分も含めて、(精神文化に関することを) どう保全をしていくのかということは重要なことだと感じた。
- ・(ダム建設予定地周辺において、チノミシリ等の) 歴史文化を保全していくにあたっては、素晴らしい景観を有する空間を保全しながら、かつ周辺の町有牧野やすずらん観賞地も保全しなくてはいけないということであり、なかなか難しい問題だと感じた。

- ・チノミシリというのは、当事者以外には分かりにくいところがあるが、それを分けるか分からないかではなくて、(地域に)いらっしゃる方々の考え、ないし実際に信じている方々の気持ちを尊重するという事だろうと思う。
- ・チノミシリというのは、個人的なものなのか、あるいは集団的に信仰しているものなのかという問題があるし、具体的に信仰されている対象が、全体としてみた場合に共通点を見いだせるのか(例えば崖が多いとか、あるいは山が多いとか)というようなことをこれから勉強していかなければならないだろう。
- ・精神文化というのは、表現がすごく難しいと思う。そして、精神文化を形として表現するとすれば、どうすればいいのかということが次の問題として出てくるのかもしれない。あるいは、それもやるべきではないということになるかもしれない。
- ・今日の資料はダムサイトだけにチノミシリ等が集中しているかのように見えるが、必ずしもそこに集中しているわけではないので、全体的な視点から見直してみる必要がある。
- ・平取ダム建設予定地には大事な精神的なものも含めた場所がある。それに関して基本的な点では(ダム建設によって)多少変わることがあるが、ダム建設によってこれからのアイヌの人たちにとって、文化的なことやいろいろな面でメリットがあると考えている。
- ・チノミシリは水の中にではなく、上の方にできると良いと思う。
- ・チノミシリの場所、カムイノミをする場所を本当は早く決めていただきたい。

以上